

## 『日本の科学者』 原稿執筆要領

### <全般的要領>

1. 原稿は、パーソナルコンピュータ（以下 PC）で、各欄の「テンプレート」を使用して作成してください。各欄に、執筆依頼時に指定された頁数は厳守してください。指定された行当たりの字数と行数を確認してください。テンプレート上で、表題や要旨などの付帯事項、本文、注および文献を含めて、指定の頁数に収めてください。図表の挿入位置には、表題を必要な行数を確保してください。顔写真は別ファイルでお願いします。
2. 表題（和文・英文）、著者名ローマ字表記、所属を付けて下さい。指定がある場合は、著者名片仮名標記、論文要旨（190 字以内）、キーワード（5 語以内；括弧内に英文）、プロフィール（100 字以内）を規定に従って作成してください。
3. PC 入力の方法は、和文（カタカナを含む）は全角とし、英文、英単語ならびに数字は半角（単語間、数字と単位間には半角スペースおく）とします。数字は原則としてアラビア数字を用い、単位標記は SI 単位、年は西暦（4 桁）とします。
4. 和文の用語と文体は、原則として常用漢字、現代仮名遣いの「である。」調とし、句読点（カンマ、ピリオド）はそれぞれ全角を用いてください。
5. PC 入力時のフォントは、和文では通常文は「MS 明朝」を、見出しは「MS ゴシック」を用い、英文では **Times New Roman** を用いてください。
6. 外来語、外国語については、原則として常用する日本語を用い、外国語の単語やカタカナ語の使用は極力避け、必要不可欠の場合は日本語を添えてください。
7. 文中で読みの明示が必要な箇所には、仮名でルビに相当する平仮名を（ ）に付してください。人名には、敬称に類するものを原則として付さない。
8. 略称、略語、略号などを使用する場合には、初出の箇所で完全または正式な名称を用いた後に括弧書きで併記してください。
9. 括弧、疑問符、感嘆符などの符号はすべて全角とし、『 』は書名・紙誌名などに付し、「 」は行を改めない引用文、他と区別する語などに付し、（ ）は補足的な文章または表記、注などに付します。2 倍棒は、ハイフオン、長音・音引き、漢字の「一」などと混同しないように、全角ダッシュ 2 字分（——）とします。
10. 注および引用文献は、本文とは別に番号を付して示し、本文中では番号を肩付き片括弧で右例のように挿入して下さい<sup>1,3,5)</sup>。引用文献の表記法は、別紙資料にあります。「注」のみ、「参考文献」のみ、「注および参考文献」なども、可です。

11. 図表と写真は、明瞭な完全版下原稿と説明文をテンプレートとは別の「**単独ファイル**」で提出して下さい。図・グラフなどは、白黒・グレーにて、そのまま縮小すれば掲載できる状態のものをパソコンで作成してください。版下作成の場合、表の題（読点なし）は表の枠外上部に、説明は表の枠外下部に、図の題（読点あり）と説明は図の下に配置します。挿入位置は、本文中に当該図表番号が明記される直後を原則とします。

## <個別的注意>

### (1) 表題部など<特集, レビュー, 論文, フロンティアなど>

**第1ページの表題部の構成**：一段組で、論文表題、著者名、論文要旨、著者顔写真（できれば）からなり、キーワードは、下部に配置されます。これらの行字数は、上述の本文行字数に含まれません。

**第1ページの表題部の行字数**：表題は、原則として3行以内です。論文要旨は38字×5行以内、和英キーワードは5語以内（本テンプレート第1ページの例を参照）で、これらは厳守してください。

### (2) 本文

**文章の入力法**：和文（カタカナを含む）は全角とし、英文、英単語と数字は半角（単語間、数字と単位間には半角スペースおく）とします。また、年は西暦とし、略さないことを原則とします。

**データに類する数字**：アラビア数字を用い、単位標記は国際単位系（SI）単位を基本としますが、一般に使用が認められている非SI単位を使うことは認めません（別添の付録参照）。なお、本文中で数学記号を用いる場合には、数式中と同じフォントを用い、それが変数・物理量を表すときはイタリック体とします。

**見出し**：上述のとおり、3段階の使用が可能です。独立見出しと独立小見出しは左寄せし、段落文頭の独立見出しは通常の段落と同様、1文字下げとして末尾にコロン（:）を付けます。

**和文の用語と文体**：原則として常用漢字、現代仮名遣いの「……である。……だった。」調とします（談話室、本、ひろばの各欄を除く）。

**送り仮名、漢字と平仮名の使い分け**：別添の<付録>を参照してください。

**ルビ**：平仮名を（ ）に付してください。

**外来語**：外国語については、原則として常用の日本語を用い、外国語の単語やカタカナ語の使用は極力避け、必要不可欠の場合には初出時に訳語（日本語）または簡単な説明を添えてください。ラテン語の学名は、イタリック体とします。

**略称、略語、略号など**：初出時に完全または正式な名称を用いた後に併記するか、何の略であるかを明記してください。例えば、EU（欧州連合）、IAEA（国際原子力機関）など。

**括弧などの符号（その1）**：すべて全角とし、『 』は書名・紙誌名などに付

し、「」は原文のままの引用文、他と区別し強調したい語句（乱用は避ける）などに付します。ただし、引用文中の「」は、差し支えなければ『』とします。英文では、和文の『』に対応して“ ”を、「」に対応して‘ ’を用いてください。（ ）は補足的な文章または表記、注などに付します。ただし、（ ）内が複数行にまたがるなど長文となることは避けてください。

**括弧などの符号（その2）**：二倍棒は、ハイフオン、長音・音引き、漢字の「一」などとの混同を避けるために、全角ダブル・ダッシュ（——）とします。ただし、これを副題、見出しなどで用いる場合には、先頭だけに付け、末尾には付けないでください。なお、和文では英文用の！や？は、引用文の他では可能な限り避けてください。

**人名**：日本人ならびに漢字圏の人名は、姓名を略さずに慣例に倣って記し、カタカナ表記をする場合には、李明博（イ・ミョンバク）などのように「姓・名」と記してください。欧米人などの場合には、カタカナ表記とし、チャールズ・ダーウィンまたはC. ダーウィン、グレゴール・J・メンデルまたはG. J. メンデルなどと記して下さい。また、必要に応じて、鈴木梅太郎（1874-1943）、C. ダーウィン（Charles Darwin, 1809-1882）などと、漢字氏名、アルファベット綴り氏名と誕生から死没までを西暦年で記すことも可能です。ただし、初出時以外では、単に鈴木、渡辺とか、ダーウィン、メンデルなどと略記します。なお、敬称に類するものは原則として付さないことにしますが、「米国のブッシュ Sr. 元大統領に輪をかけたブッシュ Jr. 現大統領は、」などはあり得ます。

**本文中での注および引用文献などの表記**：注および引用文献は、狭義の本文とは別に利用順に番号を付して末尾に一括して示し、本文中では当該箇所、例えば、……が明らかである<sup>1,4-6,8)</sup>。また、松川（2008）<sup>9)</sup>によれば……、などのように肩付き片括弧で記入します。なお、本文中での引用は、著者が2名までは松川・北村、Matsukawa & Kitamura などとし、3名以上の場合には松川ほか、Matsukawa et al. などとします。

### (3) 図表と写真の配置

**挿入位置**：関連する文章が初出の段落の次に置くことを原則としますが、状況次第では次ページに繰り込むこともあり得ます。

**本文と図表・写真との関係の表し方**：例えば、……が明らかである（図1）。表1および写真1のとおりである。などとして、下記に示す例に倣って表題は挿入箇所に記入し、図表・写真挿入に必要な行数を空けて示してください。ただし、本文と図表・写真の間は上下0.5行のスペースをとります。

**図と写真の表題などの位置**：表題と説明、注などは、図または写真の下に書き、図1……、写真1……と通し番号を付します。

**表の表題などの位置**：表題は表の上書き、表1……と通し番号を付します。説明、注などは、表の下にまとめて書きます。

**各図表は1ページ内に収めることが基本**：大きな図表で、左段と右段にまた

がり 1 ページ内に収まらない場合には、複数ページにまたがることを認めます。

[ 図・写真・表のキャプションの例 (9 ポイント) ]

**図 1 先進工業国全体の CO<sub>2</sub> 排出量の 2100 年までの見通し<sup>6)</sup>** (単位は炭素換算, 億トン) .

注 1) 図または写真に注) があれば, 見出し下のこの位置に書いてください.

出所: 出所を論文末尾に示さず, 図中に示す場合には, ここに記入してください.

**表 1 バングラデシュにおけるサイクロン犠牲者数<sup>9)</sup>**

---

注 1)

注 2)

出所: 出所を論文末尾に示さず, 表中に示す場合は, 表下部に記入してください.

**写真 1 災害現地の航空写真<sup>10)</sup>** .

注 1) 図または写真に注) があれば, 見出し下のこの位置に書いてください.

注 2)

注 3)

出所: 出所を論文末尾に示さず, 写真中に示す場合には, ここに記入してください.

#### (4) 図表と写真の作成

**表題の使用フォント:** 日本語・英数字は MS ゴシックの太字とします.

**図表と写真内の使用フォント:** 本文に準じ, 日本語は明朝体全角, 英数字は Times New Roman とします.

**図表と写真は別のテンプレートで作成:** 図表と写真は, 本テンプレートとは別のファイルで, それぞれ一つずつを黒色でコントラストがはっきりして鮮明なものを作成し, それと分かるファイル名を付けてください. 図表は, 入稿原稿が誌面上で約 70% に縮小されて印刷されることに, 留意してください. なお, 写真は, 必ず Photoshop など鮮明な画像が得られるソフトを使ってご用意ください. いずれも, Word に張り付けることは不可です. カラー写真も実費で可能です. ご希望の際は, ご連絡ください.

**軸, 棒グラフ, 折線などの線の太さ:** すべてパソコンで作成し, 縮小印刷されても細くなりすぎてかすれることがないようにしてください.

**図・写真中のキャプション:** 文字 (原則として日本語), 数字, 軸の説明などのキャプションは, すべてパソコンで作成し, 縮小印刷されても十分に判読可能な大きさとしてください. それが不可能の場合には, キャプションは図・写真本体とは別ファイルとして作成し, それぞれの位置が分かるようにしてください.

**表の罫線:** 左右のミミの罫線は, 不要です.

**謝辞:** 必要な場合には, 本文の最後に入れてください. それでは最後になりますが, 注および引用文献などの一括表記法を以下に示します.

原稿作成用テンプレートの, 注および引用文献などの一括表記法を除く説明は, 上記のとおりです.

**規定行字数と原稿締切日の遵守**：執筆者各位に置かれましては、十分に推敲され、執筆要領に従って本テンプレートで作成された、**規定行字数内の完成原稿**を、必ず締切日までに提出して下さい。

**原稿の送付方法と送付先**：原稿は、編集事務局<[jjs2007@jsa.gr.jp](mailto:jjs2007@jsa.gr.jp)>宛にEメールで送信してください。ただし、図や写真の重いファイルが複数ある場合には、添付ファイルはいくつかに分けてお送りください。やむを得ず郵送となる場合には、あらかじめご連絡下さい。

**原稿の提出から著者校正までの流れ**：お送りいただいた原稿は、複数の編集委員によって校閲されることになっており、編集委員会から内容や表記の統一を図るため、用字・用語の改善の要望をお伝えすることがありますが、その節は宜しく願います。

**著者校正**：著者校正の時期は、編集委員会からのお知らせの際に通知します。著者校正は、初校としての一度だけを基本とします。しかも、入稿原稿のとおりにあるか否かの校正が基本であり、新たな改変や追加はできませんので、完成原稿を送る前に十分な推敲をお願いします。なお、英文目次用のローマ字綴り氏名と英文表題につきましては、編集委員会と事務局による一括校正をいたしますので、執筆者には校正ゲラが回りません。

**別刷**：規定により実費でお届けします。著者校正の結果を返送される際に、申し込みください。

### <注および文献の表記法について>

- 1) 注については、できるだけ簡潔かつ明瞭な記述に心がけることとする。ただし、単に文献を示して「……を参照」などという表現は避け、このような場合は引用または参考文献として記すこと。
- 2) 本文中で用いた引用文献または参考文献は、著者名、論文・著書名、発行年などを下記の例に倣って明記することとし、用いた順番に通し番号を付して列挙する。ただし、同一文献を複数箇所で用いる場合には、初出の番号を複数箇所に記せばよい。
- 3) 本文中などで用いる箇所を明記せず、単に参考文献として列挙する場合には、筆頭著者の姓のアルファベット順に記す。
- 4) 文献の書き方は、以下のとおりとす。なお、出版社の所在地が複数の場合には、最初の地名を記せばよい。ここに示されていないその他の事例は、最近の既刊本誌の記載例を参照のこと。
- 5) Watson, J. D. & Crick, F. C.: Molecular structure of nucleic acids. *Nature* **171**, 737-738 (1953).  
[号が不要の雑誌の場合]
- 6) Jacobson, M. Z.: Effects of ethanol (E85) versus gasoline vehicles on cancer and mortality in the United States. *Environmental Science & Technology* **41** (11), 4150-4157 (2007). [号が必要な雑誌の場合]
- 7) Groves, C. P.: Systematics of the great apes. in *Comparative Primate Biology Vol. 1. Systematics, Evolution and Anatomy* (eds. Swindler, D. R. & Erwin, J., Alan R. Liss, New York, 1986) pp. 187-217. [編者による著書中のある著者の章の場合]
- 8) Grant, V.: Selection for reproductive isolation. in *Plant Speciation* (ed. Grant, V., Columbia University Press, New York, 1981) pp. 178-192. [単著による著書中のある章・節の場合]
- 9) Andersson, M.: *Sexual Selection* (Princeton University Press, Princeton, 1994) p. 38. [単著の著書のあるページの場合]
- 10) Klein, J. & Takahata, N.: *Where do we come from?* (Springer, New York, 2002). [共著による著書の全体の場合]
- 11) Real, L. ed.: *Pollination Biology* (Academic Press, Orlando, 1983). [編者による著書の全体の場合]
- 12) Chen, P., Xiong, Z. T., Luo, J. Z. et al.: Interaction of hydrogen with metal nitrides and imides. *Nature* **420**, 302-304 (2002). [著者が多数の場合]

- 13) 林 弘文, 寺尾 徹: 「地球温暖化問題への自然科学的アプローチ」『日本の科学者』42 (12), 4-9 (2007). [巻と号の両方の頁数のある雑誌では、号数を書いた上で、号の頁を入れる]
- 14) 中島紀一: 「資源循環・環境創造型農業の技術開発への提言」『週間農林』(2005年1月5日号). [号が年月日の雑誌の場合]
- 15) J. D. バナール: 『歴史における科学 1』(鎮目恭夫訳, みすず書房, 1967) p. 6. [翻訳書の場合]
- 16) 伊ヶ崎曉生: 「学問・思想の自由と大学の自治」『科学者・研究者・技術者の権利白書—その理念と実態』(日本科学者会議編, 水曜社, 2001) pp. 28-36. [編者による著書中のある著者の章の場合]
- 17) 日本科学者会議編: 『現代社会と科学者—日本科学者会議の15年』(大月書店, 1980) pp. 18-23. [編者による著書中の特定のページのみの場合]
- 18) 有賀克彦, 国武豊喜: 『超分子化学への展開(岩波講座現代化学への入門16)』(岩波書店, 2000). [全集などの一冊の場合]
- 19) 沢田昭二, 永田 忍, 安斉育郎ほか: 『共同研究 広島・長崎原爆被害の実相』(新日本出版社, 1999). [著者が4名以上の場合]
- 20) 前掲誌13) esp. p. 8. [前掲誌中の特定のページの場合]
- 21) 前掲書17) pp. 18-19. [前掲書中の特定のページの場合]
- 22) 浜林正夫: 「まえがき」前掲書17) 日本科学者会議編 pp. 2-6. [前掲諸中の特定著者の章・節などの場合]
- 23) 朝日新聞(2009年12月21日). [新聞の場合]
- 24) Web ページは、執筆者が利用後に URL が削除・変更される場合が少なくない。したがって、これらの引用は、できるだけ著書・論文や資料などの刊行物を用い、上記2) に準じて明記し、併せて必要であれば、参考のために URL を記すこと。
- 25) 止むを得ず Web ページを引用する場合には、以下の例に倣って、Web ページの作者名、作成年(表記がある場合)、名称、URL、執筆者が Web ページを確認した最終閲覧日、を記載する。
- 26) 埼玉県農林部: 『主要農作物種子関係法規集』, [http://www.pref.saitama.lg.jp/A06/B400/tane/houki/hou\\_top.htm](http://www.pref.saitama.lg.jp/A06/B400/tane/houki/hou_top.htm) (最終閲覧日: 2008年8月15日)。